東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年6月20日

音楽

親愛なるムスリムの皆様。

音の芸術である音楽（ミュージック）の言葉はギリシア語の「ムーシケ」を語源とするものです。「ムーシ」は旋律、調子を意味し、「ケ」は「規律のある、楽しい」といった意味を持ちます。音楽は歴史をとおし全ての文明に存在し、そしてその問題ともなってきました。人々は歴史のそれぞれの段階で音楽の神秘の世界を生かそうとしてきましたが、同時に音楽によって起こったいくつかの問題にも苦しめられてきました。そしてそれを防ごうと努めてきたのです。イスラームの学者達によっても、音楽はしばしば議論されてきました。完全にそれをハラーム（禁じられていること）とする人も、マクルーフ（好ましくないもの）であるとする人も、あるいは完全に許されたものであると主張する人もいました。

預言者ムハンマドは音楽について、クルアーンで定められている範囲内で評価し、宗教上不適切である音楽の演奏は禁じていたこと、宗教上特に不適切ではない音楽の演奏については許可を与えていたこと、さらにはご自身もその種の演奏を聞かれ、教友達にも勧めていたことが伝えられています。この件に関し、預言者ムハンマドの妻であるアーイシャ様から伝承されている有名なハディースがあります。「ある日アッラーの使徒が私のところに来ました。私のそばには**2**人の女奴隷がいました。ブアスの日の歌を歌っていました。アッラーの使徒は寝床に横になられ、顔を反対側に背けられました。そこに父のアブー・バクルが入ってきて、私を叱り『アッラーの使徒のおそばでシャイターンの楽器を演奏しているのか？』と言いました。アッラーの使徒

は父の方に向いて、『そのままにさせておきなさい。』とおっしゃいました。」また別の伝承では、「アブー・バクルよ、それぞれの集団にはそれぞれの祭りがある。これも私達の祭りだ。」と言われたとされています。

親愛なるムスリムの皆様。

イスラームは、人の天性が必要としている欲望や欲求に応えることに重きを置き、飲み食いや性的交渉といった物質的、肉体的必要性や欲求が満たされることを許しています。従って、人の精神的もしくは美的感覚上の必要性も同じように応えられる必要があるのです。ただし、他の許されたものと同様に、音楽ももしハラーム（禁じられていること）への要因となるのであれば禁止されたものの範疇に入ることになります。イスラームへの反発や憎悪、イスラームが好ましいものとしない言葉などが含まれる音楽、もしくは不道徳へとつながるような演奏がなされること、それを聞くことは宗教上ふさわしくありません。また教えや、教えが聖なるものと定めている事柄を中傷するもの、物理的、精神的になんらかの害を含むものも、当然不適切となります。

これらのことから、音楽それ自体が問題なのではなく、それが何かよくない事柄の媒介となるという側面から、その弊害が議論されているのです。最も正しいことはアッラーのみがご存知です。